

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第2号

令和 元年 7月 20日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 小 泉 斎

【提案日時】

7月 3日 (水)

提案 岡村 伸一郎 先生(瀬ヶ崎小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 明神 祐生 先生(神奈川小)

記録 今江 恭子 先生(上寺尾小)

【授業研分析提案】

山元小 小泉 斎 先生の授業

単元名「わたしたちの大好きなまち～山元のまちから横浜市にとび出そう～」

について、次の①～③のように提案したい。

① 根拠を持った話し合いとするために

- 横浜市にあるものの場所の話し合いでは、生活体験を聞くことで、身近な地域から市に移る過程がスムーズであった。しかし、根拠のない発言が多かったので、黒板に掲示された土地利用図で、児童と共に、場所を探して白地図に載せていくことが考えられたのではないか。

② 単元を見通す学習問題を、さらに全体化する必要性

- 単元を見通す学習問題「横浜市も場所によってまちの様子にちがいはあるのだろうか。」ができる場面で、それをさらに全体化する必要があったのではないか。

③ 視点を示した振り返りの大切さ

- 児童が書きやすいように、また、その後の学びに生かすための取り組みをするために、視点を明確にした方が良かったのではないか。視点としては「今日の授業で思ったことや考えたこと」「友だちの意見を聞いてなるほどと思ったこと」が考えられる。

【質疑応答】

- 本時の学習問題は、何だったのか。どういう所に作られ、どんな文言だったのか。→ 「山元のまちと同じように、横浜市のまちの様子に違いはあるのか。もっと地図を使って、違いを調べよう。」が授業のほぼ終わりで出てきたのではないだろうか。

【グループ討議】

① について

- 児童の身近なところから考えていくと良い。
- 児童の生活体験を資料と結びつけて話させる、予想したことを地図で確認していくのような活動をしていくことで、何かに基づいて話すことが身に付いていくのではないか。
- 地図によく慣れさせておく必要がある。そして、予想した事を地図で見るとどうだったかということが、事実に基づいて話すことにつながる。

② について

- もっと地図を使って違いを調べることが大切ではないか。調べながら気付いていく。

- 全体化は次時でも良いのではないか。身近なまちと市の違いは、児童はあると思っているようだった。
- 児童の良い発言・発見に対して、問い返しが大切ではないか。「横浜市でも違うところがある。」という児童の発言に対して、「(身近なまちと市では) どういう違いだったのかな。」のような問い返しなど。
- 単元を見通す学習問題をつくるポイントは、教師が具体的に問い返すことによって出来上がるのではないか。

③ について

- 3年の発達段階では、自由が良いのか、視点を示した方が良いのかどうか。ただ、視点を少しずつ広げていくようにしたい。
- 次に生かせそうなことが書けると良いのではないか。
- 友だちの考えを聞いたり、自分の考えを言ったりするコミュニケーションを大切に、振り返りも、話し合い活動を通して考えた事や気付いたこと、変容したことを書くようにする。

学年担当校長：笠間小校長 黒田 由希子 先生より

- 児童は「点」に注目、教師は「面」に注目する。「点」と「面」が繋がっていくというのは、写真や動画、地図を見ることによって、児童は「面」に気付いていく。
- 児童の発言の中にも、「単元を見通す学習問題」が出ていた。しかし、児童は地図に夢中になるので、発言が流れてしまっていた。事前に、地図を“じっくりと見る”時間をとることが必要だった。
- 振り返りは、児童にとっても必要。書く内容は、学び方についてのことなのか、次時につながるものなのか。いずれにしても、取り上げてみたいことを、全体に位置付けしていく。
→児童は、学習内容、学び方、次時へのつながりなど様々な点から振り返りをするが、教師が大事にしたいことを取り上げ、価値づけし、全体化していくことで振り返る力が育つ。

講師：星川小校長 小西 俊光 先生より

- 授業のポイントは、次の2つであった。
 - (1) 単元を見通す学習問題は、このようにつくる。
 - (2) 「わたしたちの市」に重点をおく。
- (1) について、単元を見通す学習問題が成立したと言える条件は、「児童にとって、解決していききたい方向性・理由がはっきりしている。」「解決していくためには、どんなことをしたら良いのかが見通すことができる。」「次へつながっていく問題であるか。」「児童が解決可能か。」「社会的事象の見方・考え方を使って解決していくことができるか。」ということである。
- (2) について、市にどのようにつながっていくかは、まち探検での学習が生きてくる。まち探検で地図を作って色を塗ることを通して、「まちをこんなふうに見ていけば良いのだ。」と、児童が見方を養い、特徴の見出し方・出すための視点が分かるようになる。この視点を基に、横浜市を見ていく。まち探検と同じ色分けにして、“じっくりと見る”ことが大切。
- 振り返りについては、児童が「振り返りをする、良いことがある。」と分からないといけない。児童が使えるような振り返りをしたいがそれは何か考えるべきである。